



会 報

# 白 日 会

第62号  
2023.10  
白日会事務所

### 白日会事務所

〒104-0031 東京都中央区八丁堀四一八二〇二  
TEL (03) 六二八〇五二二八 (FAX 兼)  
郵便振込 〇〇一九四一三九八二五七 白日会  
HP: <https://www.hakujitsu.com>  
MAIL: [hakujitsu-mail@trad.on.ne.jp](mailto:hakujitsu-mail@trad.on.ne.jp)

## 第99回 白日会展

令和5年3月23日(木)～4月3日(月)

会場：国立新美術館

### 授賞式・会長挨拶

中山忠彦

おめでとうございます。お集まりいただき、ありがとうございます。白日会が来年百年展を迎えるにあたり、今年はその先駆けとなる展覧会でもありますが、皆様方の力作を前に、私共審査員一同、緊張感をもっていい審査が出来たと私は確信をしております。

展覧会の入選の一般の人数は絵画が170名、授賞者が31名、皆様方の力作を厳正に審査させて頂きました。その結果をこれからの授賞式において皆様

にご披露いたしますが、来年の百年展を控えて、ご尽力を賜り、百年展を意義あるものにして頂きたいと思っております。



### 総会・会長挨拶

中山忠彦

イギリス政府風にいいますと身に危険のある暑さという位、その暑い中を皆様多くの方にお集まりいただきましてありがと

うございました。先程まで常任委員会にて来年の百年展の色々な計画を話し合い、また地方のそれぞれの活動状態の報告がありました。この後その旨を詳しく司会者によって報告があります。どうか来年の百年を目指して皆様のご力作をお寄せください。宜しくお願いいたします。

来年特別陳列される作品で能勢亀太郎さんという方がいます。私はこの方を名前しか知らなかつたのですが、伊藤清永先生が若い頃に、能勢塾の塾長をしてもらったのは承っております。先程その作品写真を見て、非常に骨太なロマンに溢れた作品であり感動いたしました。拝見するのを楽しみにしております。

### 第99回展概要

事務所・常任委員 寺久保文宣

第99回展は、懇親会を除く会期中のイベントが4年ぶりに復

活し、授賞式は講堂にて通常通り執り行い、公開クロッキー講座Vol.5が午前と午後の2部制にて盛況に開催され、毎日のギヤラリートークにも多くの観客の参加がありました。また、特別陳列―先達を偲ぶ―として、平松讓、柳沢淑郎、伊藤利行、市村緑郎の4先生方の作品19点を展示し好評を博しました。第95回記念展では、当会中興の祖として伊藤清永前会長の特別陳列を行いました。伊藤会長の側近として当会を牽引された平松、柳沢、伊藤(利)先生と、創立会員吉田三郎に師事した木村珪二に学んだ市村先生を顕彰しました。百回展では中山忠彦会長の指揮のもと創立会員から重要会員を経て伊藤前会長までの先達の顕彰を特別陳列と記念カタログにて紹介する方向で準備を進めています。

来年は「白日会創立百周年記念展」となります。なお、会期が始まる3月20日(水・祝)は

内覧会として出品者と来賓招待者のみを入場可能とし、祝賀会は18時より上野精養軒にて開催する予定です。初日は3月21日(木)となります。

新型コロナウイルスが猛威を振るったこの4年間でありますが、幸いにも白日会出品を目指す方々



▶7室に展示された特別陳列の様子

## 巡回展報告

## 名古屋展

中部支部長 竹内 恵

令和5年4月11日(火)～16日(日)

愛知県美術館ギャラリー

は減少せず、また観客数も年ごとに復活し第99回展は往年のピーク時に迫る勢いを感じさせました。百回展は、当会創立の精神の足取りを確かめつつ今を確かめ将来に繋げる為の当会の大きな節目となります。過去を明らしめ、今を照らし、将来に光を投げかける、そうした百回展となればと願っていますので、出品者ならびにご関係の皆様には、何卒ご協力の程宜しくお願いいたします。



▶ 3月30日の公開クロッキーを終えた中山会長と出演者、モデルさん

影響はまことに大きいものがあつたと思われます。入場者の増加、写真販売の増加、とりわけ、有料入場者が例年200後半から300前半であったことを考えますと、今回の585人は驚きに値します。入場者の評判も良く、毎年白日会展を楽しみにしている方々へより良い作品を呈示できるよう改めて心を奮い立たせた次第です。

一般の応募数は往年に比べ減少しておりますが、ここ数年、実力ある新人・若手が増えていくことは好ましい傾向で、今後の活躍に期待したいと思えます。他会で活躍した方や長年独学で実力を蓄えた方が白日会を目指して出品、成果をあげたことが新しい傾向で、支部としても嬉しく思う次第です。(一般入選19のうち新入選が8)

中部支部も高齢化が激しく、逝去、高齢などで退会・活動停止する方が増えました。この傾向は今後も続くと思われますが、上記の新人若手の活躍に期待しつつ、支部会員一同自身を叱咤し頑張つて参りたいと思えます。

今回は、例年になく好条件がそろい、入場者が大幅に増加しました。特記事項に触れた通り、開幕と同時にNHKの取材を受け、初日の昼のニュースで展示状況が放映されました。中日新聞もほぼ同時に来館、翌日の朝刊に掲載されました。思いがけないメディアの取材でしたが、中谷先生、寺久保先生に対応していただきました。東海テレビの放映は何度かありましたが、NHKは初めてのことで、その

## 関西展

常任委員・関西支部長 池田 良則

令和5年6月14日(火)～20日(日)

あへのハルカス近鉄本店ウイング館8F

近鉄アート館

今年の関西展の展示数は124点、彫刻は19点でした。広さに制限のある会場ですので、絵画に限りましては前期と後期に分け、前期が112点、後期が113点、それぞれ半分の期間しか展示されませんがこれは仕方ない事と思えます。13日の陳列には中山会長、広田・中谷・寺久保常任委員に陳列に来ていただきました。また初日の表彰式はウイング館のspaceにて行いました。

関西展は、デパートでの開催です。そのため独自のプランです。そのため独自のプランで、色紙のプレゼントをしております。メンバーは毎年変わりますが今年希望をとり反映しました。

ギャラリートークは、初日は広田・中谷・寺久保常任委員、17日は大路副支部長、18日は児玉支部長(前)、19日は私が行いました。

ました。

会期中の展示替えは、営業終了後の夜中に行うため大変な作業となりますが、皆さんと力を合わせて行っております。

入場者数については7日間合計6135名となりました。これは去年から比べますと528名増えております。今年はコロナ前の入場者数を上回ることを目標にいたしましたので少し力足らずでしたが、何とか昨年を超える事が出来てほっとしております。

100回展に向かい、実効性のある取り組みを考えて確実に実施することが必要だと思っております。

※関西支部は100回展を迎えるにあたり常任委員の池田良則が支部長となります。

## 選抜展報告

## ◆白翔会展

(準公式選抜展)

令和5年4月19日～25日

松坂屋名古屋店

## ◆白日会会員選抜展(公式選抜展)

令和5年6月14日～20日

あへのハルカス近鉄本店

## ◆明日の白日会展 (公式選抜展)

令和5年8月23日～28日

日本橋高島屋

第99回展 総会概要

令和5年（2023）8月6日 16時〜精養軒

会員33名の出席と会員218名の委任状により、以下のことが承認されました。  
同日13時より行われました常任委員会を経て、99回展事業報告、99回展決算報告、白  
日会創立百周年記念展事業計画及び予算が承認されました。以下決定事項を報告しま  
す。

●白日会創立百周年記念展について

百回展の特別事業として、特別陳列―白日会百年の軌跡―を予定、創立会  
員から重要会員総50点余りの特別陳列を予定し、特別陳列を中心としたカ  
タログを通常図録とは別に製作し、当会百年の歴史を顕彰します。

●内覧会について

会期が一日短くなりますが、3月20日（水・祝）は内覧会となり、10時より出品者は  
会場に入場できます。来賓招待者は原則15時からの入場を予定しております。なお18  
時より上野精養軒にて祝賀会を行う予定です。

●特別会費について

会員・準会員・会友共、通常の会費に加え特別会費を納入ください。特別展示やカ  
タログ製作、記念品や祝賀会費に充てられます。

●審査員

先の常任委員会にて、100回展の審査員を決定しました。（常任委員は全て審査員）  
絵画：常任委員のみ 彫刻：峯田義郎（顧問） 広沢邦子（会員）

第100回白日会展スケジュール

2日（火）	4月1日（月）	28日（木）	26日（火）	21日（木）	20日（水）	19日（火）	15日（金）	14日（木）	13日（水）	12日（火）	11日（月）	3月10日（日）
搬出 〔4月3日（水） 彩美堂業者搬出〕	閉会（15：00）／作品撤去	公開クローキ―講座	休館日	初日・テ―プカット ／巡回展・選抜展選定 ／選外搬出	内覧会・授賞式・祝賀会	陳列・賞選定（特・法）	名札／作品移動	部屋割り・陳列準備	鑑審査（賞選定〔含〕・推挙）・発表事務	鑑審査（入選・落選）	搬入	搬入

会期：令和6年3月21日（水）～4月1日（月） 会場：国立新美術館2F（2A・2B・2C・2D）

事業計画表

12月	9月	8月	7月	6月	4月	3月	2月
日付未定	1日	日付未定	4日	日付未定	日付未定	21日～4月1日	11日
三越選抜展（日本橋三越本店）	研究会（日展会館）	明日の白日会展（日本橋高島屋）	総会（上野精養軒）	白濤会展（あへのハルカス近鉄本店タワー館美術画廊）	関西巡回展（あへのハルカス近鉄本店ウイング館アート館） 画廊	白日会展（国立新美術館）※詳細は左記参照 名古屋巡回展（愛知県美術館ギャラリー） 名古屋選抜展（松坂屋名古屋本店本館第一美術画廊及び第一美術画廊）	研究会（日展会館）

令和6年

第99回白日会展 受賞者推挙者一覧

特別賞

内閣総理大臣賞 福井 欧夏 (絵画) 東京  
 文部科学大臣賞 亀山 裕昭 (絵画) 千葉  
 SOMPO美術館賞

法人寄託賞

会友奨励賞 大窪 ひとみ (絵画) 広島  
 会友奨励賞 内藤 千尋 (彫刻) 東京  
 一般佳作賞 河菜 直子 (絵画) 広島  
 一般佳作賞 坂田 英昭 (絵画) 大阪  
 一般佳作賞 二木 ゆき子 (絵画) 山口  
 一般佳作賞 松本 多恵子 (絵画) 千葉

【百貨店賞】

近鉄百貨店賞 宮本 真冬 (絵画) 和歌山

【画廊賞】

中沢弘光賞 原 太一 (絵画) 千葉  
 富田温一郎賞 中谷 晃 (絵画) 千葉  
 吉田三郎賞 大下 和利 (絵画) 山口  
 伊藤清永賞 石崎 義弘 (彫刻) 茨城  
 平松讓 賞 和田 直樹 (絵画) 千葉  
 八咫鳥 賞 下時治郎秀臣 (絵画) 徳島  
 49回展推挙

【彫刻】

小林 克敏 愛知  
 田端 誠二 新潟  
 手嶋 かよ 三重  
 平本 和夫 神奈川  
 星野 典子 群馬  
 三村 稔 愛知  
 宮本 佳子 広島  
 森 真一 兵庫  
 森重 美香 鹿児島  
 山本 周 大阪  
 横島 誠 茨城  
 丸田 多賀美 鹿児島

●準会員推挙

【絵画】

飯田 弘子 (絵画) 東京  
 後藤 俊子 (絵画) 北海道  
 田端 誠二 (絵画) 新潟  
 ギャラリー大井賞 西浦 慎吾 (絵画) 兵庫  
 瀧川画廊賞 国本 青山 (絵画) 東京  
 ギャラリーアーク賞 吉成 浩昭 (絵画) 東京

会賞

白日賞 増田 哲 (絵画) 京都

●会員推挙

【絵画】

浅井 秀雄 大分  
 朝日 夏実 大阪  
 石井 直美 山口  
 大下 和利 山口  
 狩野 広美 静岡  
 菊地 裕一 茨城

(副賞ホルベイン賞) 伊藤 英二 (絵画) 北海道  
 (副賞クサカベ賞) 宮本 真冬 (絵画) 和歌山  
 白日賞 手嶋 かよ (絵画) 三重  
 (副賞マツダ賞) 丸田 多賀美 (彫刻) 鹿児島  
 準会員奨励賞  
 準会員奨励賞

浅井 秀雄 大分  
 朝日 夏実 大阪  
 石井 直美 山口  
 大下 和利 山口  
 狩野 広美 静岡  
 菊地 裕一 茨城

阿部 申次 兵庫  
 有竹 敏視 三重  
 井口 民子 神奈川  
 池田 宏介 京都  
 伊佐治多美子 愛知  
 井出 昭 神奈川  
 伊藤 ひとみ 北海道  
 岩村 良之 長崎  
 大窪 ひとみ 広島  
 太田 正弘 静岡  
 亀井 輝男 愛知  
 児玉 えり子 兵庫  
 五野 成之 長野

●会友推挙

【絵画】

荒木 瑠奈	熊 本
石田 徹	青 森
伊藤 英二	北海道
内濱 富美子	長 崎
大村 利朗	静 岡
小野 智子	大 分

【彫刻】

小林 辰平	東 京
佐木 義輝	大 阪
住田 翔太	愛 知
出水 翼	大 阪
長尾 圭子	千 葉
中島 みどり	宮 城
中村 キミ子	宮 崎
鍋田 忠彦	静 岡
西田 佳世	熊 本
西田 味重子	兵 庫
浜崎 寿子	岡 山
宮城 千春	東 京
宮崎 宗人	神 奈 川
元田 太	神 奈 川
山河 美智郎	鹿 児 島
横川 みどり	愛 知
吉村 則子	長 崎
該当者なし	

特別賞審査員

【彫刻】

尾本 知子	神 奈 川
貝原 豪	長 野
梶原 君子	大 阪
加藤 康二郎	愛 知
金田 茂	千 葉
河菜 直子	広 島
車戸 優子	岐 阜
坂田 英昭	大 阪
佐藤 嵩幸	岡 山
鈴木 伊佐男	埼 玉
鈴木 洋子	東 京
竹之内さつき	長 崎
田丸 佳子	愛 知
野々山 耕	愛 知
藤森 好広	大 分
増田 哲	京 都
松林 淳	静 岡
宮本 真冬	和 歌 山
渡部 慶二	山 形
該当者なし	

内閣総理大臣賞  
文部科学大臣賞

瀧 悌三先生  
土方 明司先生



受賞作品紹介

特別賞

内閣総理大臣賞

福井 欧夏



茜に懷かれて  
P 100

文部科学大臣賞

亀山 裕昭



Slumdog  
123 × 200cm

SOMPO 美術館賞

原 太一



After The Rain  
M150

中沢弘光賞

中谷 晃



秋麗の庭園  
F 100

富田温一郎賞 (副賞平澤篤賞)

大下 和利



果てしない空へ  
F 100

吉田三郎賞

石崎 義弘



剥がされた記憶  
60 × 35 × 35 cm

伊藤清永賞

和田 直樹



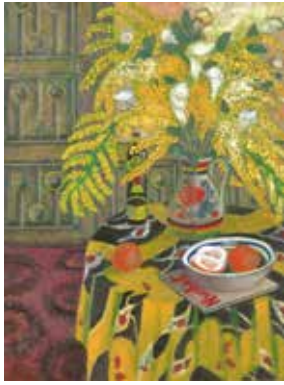
黄金色の旋律  
P 80

平松讓賞

下 時治郎秀臣



川辺春隣  
F 100



後藤 俊子

カラートミモザ  
F 60



飯田 弘子

夏の午後  
P 100



会員賞

関口 雅文

そよ風は春に煌めく  
F 100

会賞



増毛町 2022.9.15  
P 100

白日賞 (副賞 ホルベイン賞)  
増田 哲



田端 誠二

奥只見北の又川  
F 80



車窓  
F 150

白日賞 (副賞 マツダ賞)  
法人寄託賞  
【百貨店賞】 近鉄百貨店賞  
【画廊賞】 美岳画廊賞  
宮本 真冬



白日賞 (副賞 クサカベ賞)  
伊藤 英二

春光輝 (湧別川)  
水彩 F 100



雲行き  
P 100

会友奨励賞

大窪 ひとみ



陽だまりで  
50 × 71 × 24cm

准会員奨励賞

丸田 多賀美



准会員奨励賞

手寫 かよ

マジョラムの香り  
変 60



曾木にて・・・  
鉛筆 47 × 82.5cm

一般佳作賞

坂田英昭



窓辺  
P 100

一般佳作賞

河菜直子



That's why I'm here  
160 × 45 × 55cm

会友奨励賞

内藤千尋



守り  
F 60

一般佳作賞

松本多恵子



卯月  
M 100

一般佳作賞

二木ゆき子

法人寄託賞  
【画廊賞】



自画像  
F 15

大看美術賞

津絵太陽



時に、物語は人々の救いとなる。  
F 100

関西画廊賞

山本周



city  
130.3 × 324.2cm

梅田画廊賞

岡山昌弘



群像  
F 130

ギャラリーアーク賞

吉成浩昭



花開花落二十日  
P 120

瀧川画廊賞

国本青山



午睡  
F 80

ギャラリー大井賞

西浦慎吾





50年に亘って在籍された方に授与される八咫鳥賞。今年は絵画部で三名の方が受賞されました。

受賞者の皆様へ、受賞にあたり思い思いの内容でと、ご寄稿をお願いしました。

**後藤 俊子（会員） 49回展会友推荐**

「八咫鳥賞を受賞して」

この度は、八咫鳥賞をいただきありがとうございます。ありがとうございました。そもそも絵との出会いは、北大看護学校を卒業し、同級生の家に遊びに行っているうちに、その叔父さんが、白日会会員の平野先生※で絵を教えていたので、その仲間に入っていたのがキッカケでした。一年後、私は、関東通信病院に就職のため上京しました。同時に飯田弘子さんも虎の門病院に就職し、上京しました。札幌の平野先生の紹介で、平松譲先生を紹介していただきましたが、先生は、やっと早期退職して、これから絵を描こうと意気こんでいらっしやった所で、あっさり断われてしまいました。が、その後、奥様からお電話が

あり、西川加耶子さん、小河美智子さんも、一緒に始めることにしましたので、いらして下さいと。私達は、油絵の初歩から大きなキャンバス張りまで教えていただき、今でも自分でキャンバス八十号まで張れます。一年後白日会に出品し、初入選、そして会友と五十年がたちました。私は、三年ちよつとで北海道に帰り、白日会は、出品できるかどうか不安でしたが、西川さん、小河さん、飯田さんが「東京にいつくるの？」と云われ「そうだ」

出品したら銀ブラもできる。北海道の白日会会員 故 出口靖子さんと毎年東京都美術館で、白日会を見て銀座で買物するのが、ルーティンになっていました。しかし残念なことに白日会大好きだった出口さんは、亡くなられたのは、六本木の国立美術館に変更になった年でした。今年の授賞式には、出口さんの妹さんとその娘さんが、来て下さいました。

北海道支部の節目の回には、深澤先生が来て下さり、心を寄せていただき感謝し、とてもさみしく思います。

平松先生の最後の御言葉は、「ああでもないこうでもない」と作家の醍醐味を味わって欲しい」でした。そのように努力したいです。

※平野俊昌（1928～2010）白日会に第10～59回展まで出品

**田端 誠二（会員） 49回展会友推荐**

「八咫鳥賞・会員推荐を受けて」

今回八咫鳥賞と会員推荐と二重の喜びであります。

振りかえりますとこの50年間絵を画いて来られた事は家族の協力があり私にとつて幸運であつたと感謝しています。社会の変化の中続けて行く事の大変さを感じている。

これからも自分の出来る範囲で新たな出発へと気持を引締めて生活していきたい。

**白日会百周年記念展に向けて**

**中澤弘光 生誕百五十年**

来年迎える百周年記念展では、白日会の創立者である中澤弘光の生誕百五十年も同時に迎えることとなります。百周年展の特別陳列会場内で、中澤弘光生誕百五十年記念コーナーを設け、中澤絵画の一端をご紹介します。できればと思います。

■ 中澤弘光



明治7年（1874）～昭和39年（1964）  
第1回展～第40回展に出品 ※第2回展は不出品



▶ 「山の湯」 大正2年（1913）

76・1×48・9 cm 個人蔵

特別陳列予定

## 追悼のことば

令和五年一月六日、白日会にとって大きな存在でありました常任委員の石垣定哉先生がご逝去されました。

石垣定哉先生は昭和22年（1947）三重県東員町に生まれました。東員中学で油絵を始められ美術部をも設立、画家を志し、昭和41年（1966）創立間もない愛知県立芸術大学に入学しました。同校では小磯良平、笠井誠一教室を専攻しつつ、アメリカ現代美術に共鳴した制作や活動を行い、大学紛争にも身を投じました。同大卒業後の昭和48年（1973）

白日会第49回展に初出品、翌年第五十回記念展にて文部大臣奨励賞を受賞し準会員推挙となりました。同年、西欧を取材旅行、翌年休会し3年に渡りニューヨークに留学しました。最新美術の影響を受け、さらに欧游にてセザンヌ等の西洋近代美術を再認識した上で、自身が「桃源郷」と呼んだ郷土風景から外国風景、人物画も写生から抽象的まで幅広く取り組みつつ、独自の色彩造形を確立していきました。昭和56年（1981）白日会第57回展にて白日会に復帰、T（東方アート）賞、準会員奨励賞を受賞し会員推挙となり、昭和61年（1986）第21回昭和会展にて昭和会賞受賞、翌年白日会常任委員となり当会に色彩造形派の素地を築き牽引

していきました。日動画廊を中心に積極的に個展を開催、平成に入り海外各地で個展を開催し、「ニューヨーク・シリーズ」や「クレージー・ホース・シリーズ」を展開し精力的に活動しました。しかし、平成20年（2008）旅行中突然に脳梗塞に見舞われ、入院とリハビリを続け2年半後に再起を果すも再び発症、入院とリハビリの生活を繰り返し返すも、復帰の情熱を常に燃やし、病床の中でも絵筆をにぎりながら闘病生活を続けられました。

石垣先生のご逝去にあたり、故人に所縁の深い会員より追悼のことばを寄稿していただきました。



■ 石垣定哉（常任委員）

準会員推挙50回展 会員推挙57回展  
文部大臣奨励賞50回展  
内閣総理大臣賞62回展  
令和5年1月6日逝去 享年75歳

## 石垣先生の思い出

常任委員 広田 稔

作品や、作品制作に対しての非常に厳しく繊細な面と、豪快な酒席での振る舞い、そして人懐っこい眼差しが同居する魅力的な先生でした。

石垣先生との出会いは白日会への初出品の年でした。もう30年以上も前の事です。抽象と具象の狭間で写真絵画を模索する若い仲間達にとっての支柱であり、多くの展覧会に誘ってもらい、また多くの貴重な事を教わりました。

ドラマチックなテーマの変遷をされた先生ですが、その中でも先生の人生のメインテーマと言ってもよいであろうニューヨークシリーズが始動し、全身全霊を込めてこの巨大なテーマに立ち向かう姿を見ることが出来たのは私のかげがえのない財産です。石垣先生を介して親しくなった三輪さんや、故阿久津正志さんとニューヨークの個展に行ったり、バリ島でレゴンドダンスの踊子をスケッチブックを並べてクロッキーしたのもよい思い出です。

病後、日動画廊の個展のパーティーで「絵を描いていると、痛みを忘れられる」との言葉に胸が詰まりました。

昨年の高島屋でのデッサン展で久しぶりに先生の作品を多数拝見し、一緒に

行った熊澤さんと「石さんの作品見ると、絵が描きたくなるよね。」と話しながら会場を後にしたことを覚えています。

訃報を聞き、寺久保君と共にお別れに行った時、棺の中の先生のお顔がとても穏やかだったのを見て、なんだかほっとしました。絵画と全力で格闘し続けた石垣先生。

安らかに眠りください。  
ありがとうございました。



▲ 第50回白日会展（1974）文部大臣奨励賞 「人形の部屋」 F120

◀ 1991年 シシリー、カタニア美術学校横の路地に



石垣先生

会員 三輪修

石垣先生との出会いは48年前、私は17歳でした。先生は身長が高く、流行りのロングヘアーにベルボトムズのボン姿はとてもお洒落でカッコいいなと思いました。当時、絵描きになりたいと思い悩み、苦しんでいた私は石垣先生に電話をしました。『どうしても絵描きになりたいのであれば、とにかく明日の朝5時に俺のアトリエに来い！』と言われてました。ニューヨークに留学されるとのことでお忙しい中にもかかわらず、大胆なストロークで的確に形を捉えるデッサンの方法を丁寧に指導してもらいました。『デッサンは絵描きの基礎になる体力を鍛える事でもあるから、辛く挫けそうになることもあるがとにかく、時間を掛け諦めないで辛抱強く描きなさい。意欲のある君ならきっとできるから！』と励まされました。この言葉は今でも大切にしており、私の原点となっています。

10年後、偶然に地下鉄で石垣先生に再会し、三重

のアトリエで制作工程を拝見したり、キャンバス張りをさせて頂いたり、ニューヨークやフランスにおける個展に同行させて頂くなど・挙げればきりがありません。石垣先生は、芸術大学を訪れ学生たちへの指導および、白日会の若手作家をまとめて牽引することが出来る懐の深い先生でした。石垣先生には、本当にいつも気にかけてもらい「三輪、元気か」という声が聞けないかと思うと自然に涙があふれてきます。亡くなられる2日前に手紙を頂いたので、突然の訃報は信じられない思いです。

これまでのお導きに心より感謝申し上げます、謹んでご冥福をお祈りいたします。

石垣定哉先生、本当にありがとうございました。



▲ 第62回白日会展（1986） 内閣総理大臣賞 「多度山晴天」 F150

## 展覧会記録 個展・主なグループ展

### 令和五年一月

Drawing Drawing Drawing

目黒自由通りギャラリー  
岡田高弘 広田稔 佐藤陽也

### 二月

長船善祐 油彩画展 山口井筒屋  
宮崎ギャラリーかわなか  
牧内則雄展 名古屋ギャラリー彩  
関口雅文展 横浜 仲通りギャラリー  
アルナイルの会作品展 大阪 大丸心齋橋店

高梨芳実 大木基彰 大路誠 尾崎浩美 久保君代  
児玉健二 佐々木和子 三箇大介 吉間春樹  
冬の新潟紀行 横浜 ギャラリーミロ  
岡田高弘 広田稔 佐藤陽也

果醐季乃子展 横浜 仲通りギャラリー  
山田郁子展 埼玉県立近代美術館  
ArtBox 05 徳丸晃人物画展  
宮崎みやぎアートセンター

### 三月

阿部良広展 京都ギャラリー Create 洛  
長船善祐 油彩画展 札幌三越

島根一畑百貨店松江店  
松本実桜展 銀座 SASAI FINE ARTS  
川畑太展

ART GALLERY 東急プラザ銀座  
ソレイユブラン 八丁堀 美岳画廊  
有川利郎 小野月世 白井秀夫 徳田明子  
松林淳（一般） 村上ゆたか

長谷川晶子展 横浜高島屋  
友清大介展 銀座 SASAI FINE ARTS

四月

浦田周社 木版画展 奈良 東大寺総合文化センター  
阪東佳代 個展 日本橋三越本店

五月

長船善祐 油彩画展 仙台三越  
大作 油彩画展 大分銀行本店  
第35回 北彫展 北区北とびあ  
池川直 清家悟 堀内秀雄 江藤望 小関良太  
川崎義昭 永江智高 長谷川倫子 前芝武史  
現代作家美術展 新宿ギャラリー 絵夢  
寺久保文宣 関口雅文 長谷川晶子

吉田直末 洋画展

ジェイアール京都伊勢丹

白日会精鋭展 ESPACE SELECTION 大丸京都店

北川直枝 久保尚子 児玉健二 坂元忠夫 三箇大介  
堀井聰 松本実桜 山内大介 山本桂右  
有田巧 フレスコ画 銀座 柳画廊  
福井欧夏展 銀座ギャラリー 和田  
第九章 西翔展 大阪画廊 大千  
河野桂一郎 富所龍人

六月

原太一 油彩展 松坂屋名古屋店  
徳丸晃個展 宮崎ギャラリー かわなか

長船善祐 油彩画展 福岡三越  
沖津信也 個展 西武秋田店

七月

齋藤秀夫 油絵展 京王百貨店新宿店  
伊藤晴子展 銀座 gallery 一枚の繪  
木原和敏 水彩・素描画展 銀座 画廊宮坂  
山本桂石展 高島屋大阪店  
関口雅文 個展 あべのハルカス近鉄本店  
長船善祐 油絵展 丸善丸の内本店  
大友義博 油絵展 日本橋三越本店  
高梨芳実展 大阪大丸心齋橋店  
長坂 誠展 港区 東邦アート

八月

長船善祐 油彩画展 広島三越  
福岡 デイキューブギャラリー 松山三越  
大山富夫展 銀座 画廊宮坂  
かくかく展 横浜ギャラリー ミロ  
宇田川格 納義純 大平嘉和 佐藤陽也 西沢貴子  
吉住裕美 吉成浩昭  
第4回 阿佐美展 新宿ギャラリー 絵夢  
高梨芳実 西谷之男  
納義純展 横浜 仲通ギャラリー  
寺久保文宣展 日本橋三越本店  
田中孝知 洋画展

あべのハルカス近鉄本店

※紙面の関係上、会員の個展及び主なグループ展のみの掲載となっておりますが、ご了承ください。

ホームページの展覧会掲載について

白日会ホームページにある展覧会情報「個展・グループ展他」のページに掲載をご希望の在籍者は、白日会事務所まで展覧会のDM等を郵送またはメールにてお送りください。尚、掲載には数日見ていただくと共に、郵送の場合は発送から到着まで日数がかかりますので、会期が近づいている場合はなるべくメールをご利用ください。

お知らせ

春の研究会

令和六年二月十一日(日)

10時〜終了次第 受付 9時45分〜13時

参加費 一人五千円(昼食等含む)・見学も同様

会場 日展会館 東京都台東区上野桜木一丁目

電話 〇三三三八二一〇四五三

【交通のご案内】

JR「鶯谷駅」北口より徒歩五分・地下鉄

千代田線「根津駅」より徒歩一五分

※二階受付順となりますのでご了承ください。

※日展会館には駐車場はありません。車でご来場の方は必ず近くの有料駐車場に駐車してください。

住所変更時のお願い

住所の変更がありましたら、早めに白日会事務所までお知らせ下さい。住所録に反映されるのは2月半ばまでに届けられた住所となり、出品票に記入した住所は翌年の住所録に反映されます。

本年度の会費の納入について

会費は九月より十二月末日までに郵便振込用紙にて納入をお願いいたします。今年度は通常会費の他に白日会創立百周年記念展特別会費が加算されます。一年以上滞納し白日会への連絡がない場合、原則除名となります。

退会届を提出しない場合は滞納扱いとなります。詳しくは白日会事務所まで。

訃報

乙黒久(特別会員) 令和5年3月逝去

※訃報の掲載は会員のみとなります。

※乙黒久先生の追悼文は次号掲載予定です。

編集後記

昨今、世界情勢の影響を大きく受ける世情となりました。百回展ではさらに苛烈な情勢の中で白日会と美術の命脈を繋いだ先達の業績を顕彰いたします。有意義な百周年とならんことを祈念いたします。

発行 白日会事務所

寺久保文宣 阿辺隆 小河美智子

神山晃一 久保尚子 吉田純子

印刷 六光社